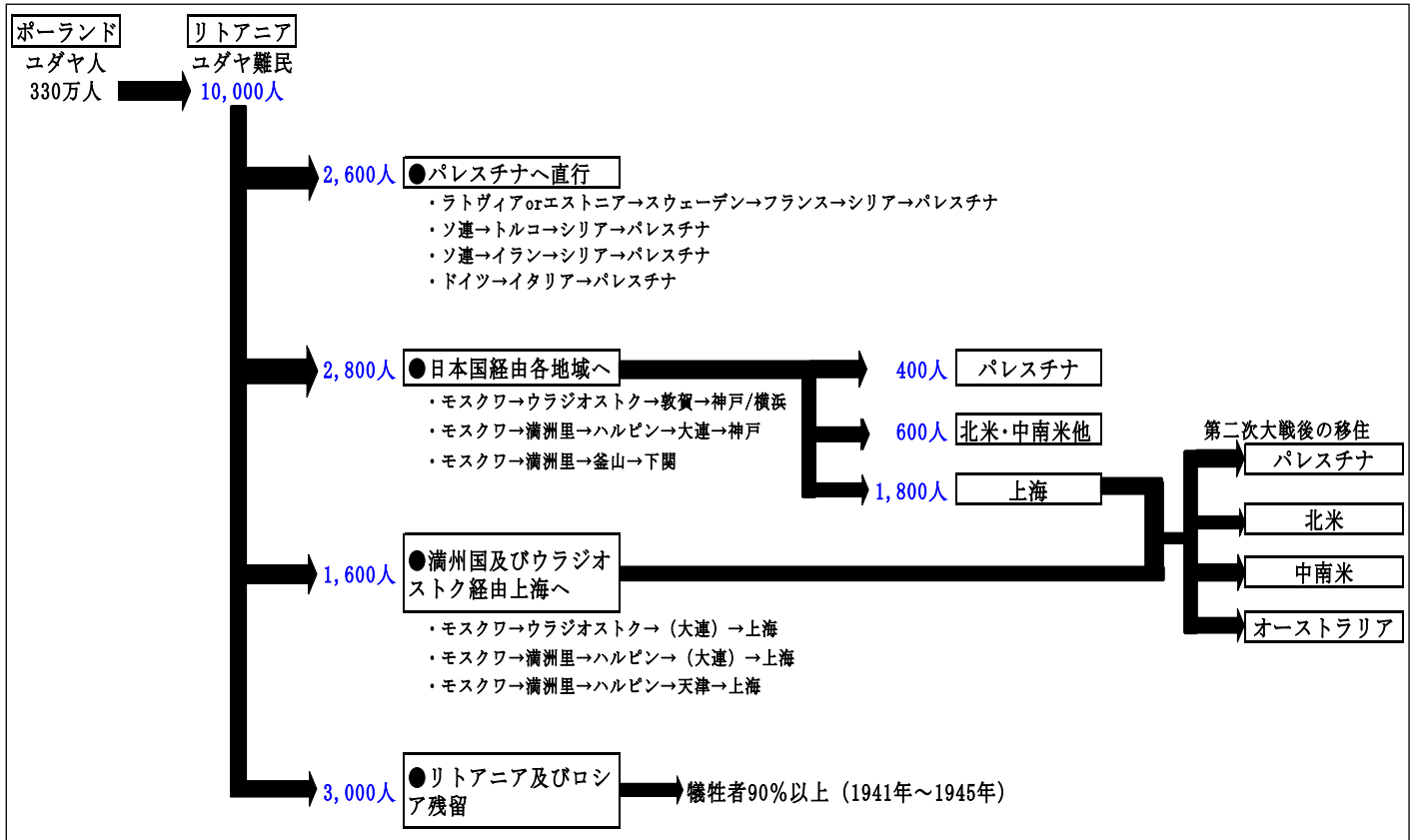


9. 「命のヴィザ」をつないだ「善意の連鎖」のまとめ

●ユダヤ難民の行先

ポーランドからリトアニアへ脱出したユダヤ難民 1 万人の内、ヨーロッパやソ連を經由してパレスチナに行った人は約 2,600 人、日本に来たユダヤ難民約 2,800 人のうち、1941 年秋までに、約 400 人がパレスチナへ、約 600 人が北米・中南米他へ行き、残りの約 1,800 人は神戸から上海へ移送されました。満洲国やウラジオストクを經由して上海に行った人は約 1,600 人でした。上海に来たユダヤ難民の合計約 3,400 人は戦中・戦後、パレスチナ、北米、中南米、オーストラリア等へ移住しました。



ポーランドからのユダヤ難民の行先 (1940 年 7 月～1941 年 11 月)

因みに、今回の話の中で名前が出てきました、主なユダヤ難民の最終行先国は次の通りです。

☆ゾラフ・バルハフティク：日本、カナダを經由して米国に行き、1947 年にパレスチナに移住。1948 年イスラエル建国宣言の署名者の一人となる。立法議員 (1948-1981) や宗教大臣 (1962-1974) 歴任。

☆イサーク・レヴィン：日本を經由してイスラエルに移住し宗教指導者となる。

☆ナタン・グッドヴィルド：日本、インドネシアを經由して、ベルギーへ移住し宝石商となる。

☆モイシェ・ズーブニク：日本を經由して、米国へ移住。ニューヨークのブルックリンでユダヤ神学校 (イエシバ) を再興し、ラビ (ユダヤ学教師) となる。

この救出活動で、ポーランドからのユダヤ難民約 1 万人のうち約 7 千人が生き延びることができました。しかし、リトアニアやロシアに残ったユダヤ難民 (約 3,000 人) の 90%以上が、ナチスによるホロコーストの犠牲となりました。さらに、痛ましいのは、ポーランドには戦前 330 万人のユダヤ人が住んでいましたが、第 2 次大戦中にその内の 90%以上にあたる約 300 万人がホロコーストの犠牲となりました。

国名	ホロコースト以前のユダヤ人人口(人)	犠牲者(推計)	
		人数(人)	比率(%)
バルト諸国	253,000	228,000	90
ベルギー	65,000	40,000	62
ブルガリア	64,000	14,000	22
ボヘミア・モラヴィア保護領	90,000	80,000	89
デンマーク	8,000	-	-
フィンランド	2,000	-	-
フランス	350,000	90,000	26
ギリシャ	70,000	54,000	77
オランダ	140,000	105,000	75
ユーゴスラヴィア	43,000	26,000	60
ポーランド	3,300,000	3,000,000	91
ルクセンブルグ	5,000	1,000	20
ハンガリー	650,000	450,000	69
ドイツ/オーストリア	240,000	210,000	88
ノルウェー	1,800	900	50
イタリア	40,000	8,000	20
スロヴァキア	90,000	75,000	83
ソヴィエト連邦	975,000	107,000	11
ベラルーシ	375,000	245,000	65
ウクライナ	1,500,000	900,000	60
ルーマニア	750,000	310,000	41
総計	9,011,800	5,943,900	66

国別のホロコースト犠牲者数

戦後、ポーランドには反ユダヤ主義が根強く残り、1946年6月に216千人(戦前の僅か6.5%)のユダヤ人がいましたが、1970年に19千人にまで減少し、現在は約3,200人(最大で約7,500人)です。統計学的にはテレビでしかユダヤ人をみない状況といえます。一方、「諸国民の正義の人」は世界で27,712人(2020年1月1日現在)おられますが、そのうち約26%に当たる7,112人がポーランドの方々です。

ポーランド	7,112	モルドヴァ	79	インドネシア	2
オランダ	5,851	アルバニア	75	中国	2
フランス	4,130	ルーマニア	69	ブラジル	2
ウクライナ	2,659	ノルウェー	67	チリ	2
ベルギー	1,767	スイス	49	ペルー	2
リトアニア	916	ボスニア	49	日本	1
ハンガリー	869	アルメニア	24	ヴェトナム	1
イタリア	734	デンマーク	22	ルクセンブルグ	1
ベラルーシ	669	イギリス	22	トルコ	1
ドイツ	638	(含スコットランド)		モンテネグロ	1
スロヴァキア	615	ブルガリア	20	ジョージア	1
ギリシャ	357	スロヴェニア	15	エルサルバドル	1
ロシア	215	スウェーデン	10	エクアドル	1
セルビア	139	マケドニア	10	キューバ	1
ラトヴィア	138	スペイン	9	エジプト	1
クロアチア	120	アメリカ	5	アイルランド	1
チェコ	119	エストニア	3		
オーストリア	112	ポルトガル	3	合計	27,712

「ヤド・ヴァシェム(イスラエル国立ホロコースト記念館)認定 2020年1月1日現在」

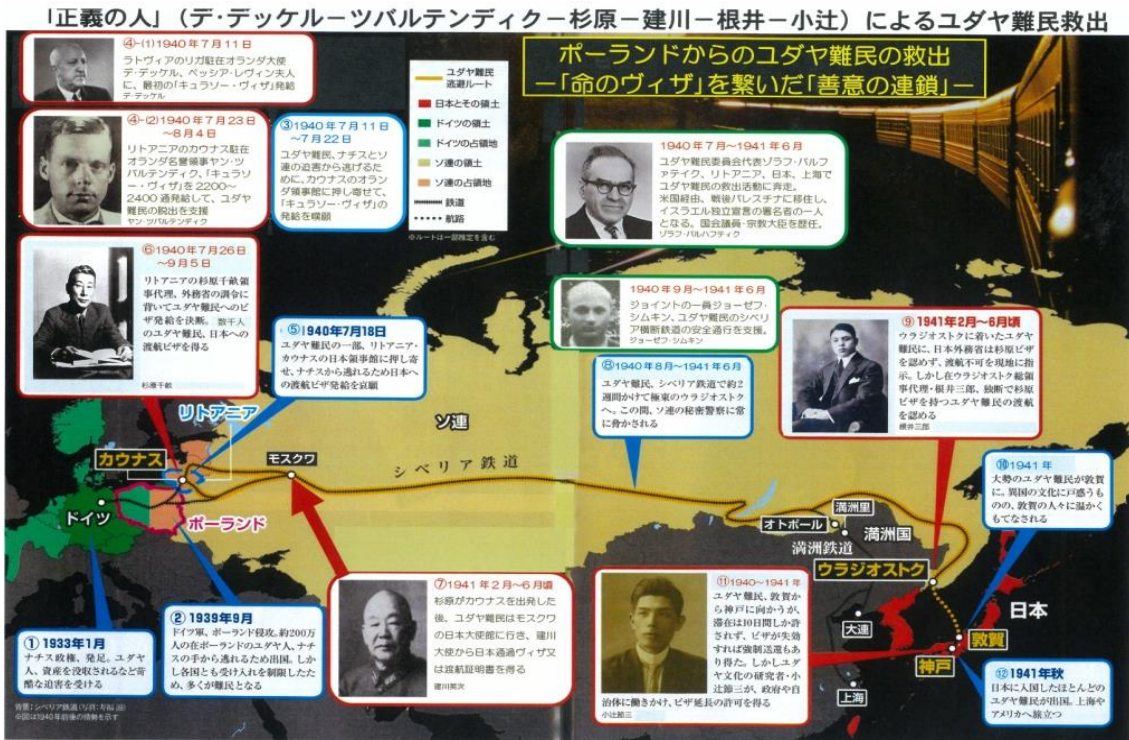
「諸国民の正義の人」の人数(2020年1月1日現在)

●「命のヴィザ」をつないだ人たち

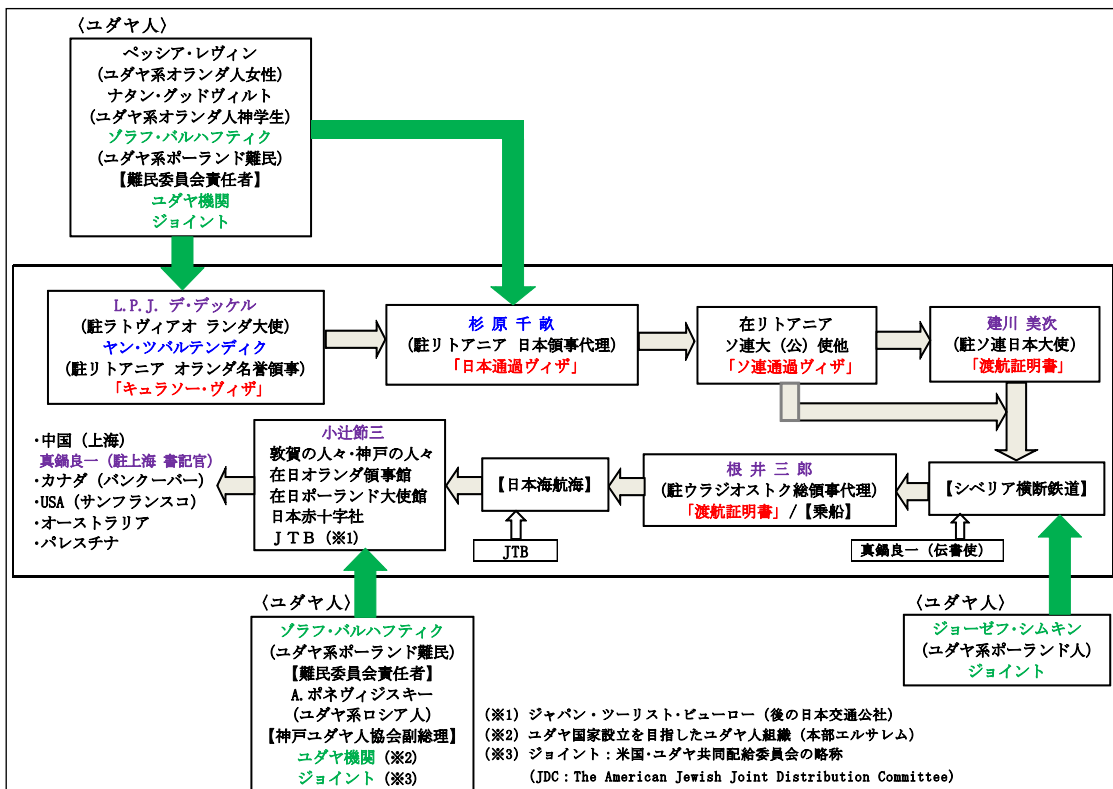
「命のヴィザ」をつないだのは、どのような人たちだったのでしょうか?

「命のヴィザ」をつないだ、「善意の連鎖」、即ち「善意のバトンリレー」が無ければ、「命のヴィザ」を生かすことはできませんでした。ポーランドのユダヤ難民が生き延びることができた背景には、「諸国民の正義の人」

だけでなく、「諸国民の正義の人」には選ばれてはいませんが、多くの善意の人たちがいました。当時外交官であった、デ・デッケル、ヤン・ツバルテンディク、杉原千畝、建川美次、根井三郎は、緊急時にだれ彼ではなく自分で判断し、自分が出来るギリギリの合法的措置を採りました。この内、ヤン・ツバルテンディクと杉原千畝の2名が現在、「諸国民の正義の人」です。



名も知られていない多くの市井の人たちがいました。また、ユダヤ人自身の必死の自助努力がありました。世界中のユダヤ人組織からの支援があったことも忘れてはなりません。それぞれが相応しい時に、相応しい場所で、相応しい素晴らしい行動をしました。また中には、個人的な思いは別にして、経済的利益のために、仕事をした国や組織もあったことも事実です。



●「善意の連鎖」からの学び

「善意の連鎖」から学べることは何でしょうか？

- ・「正義の人」たちは、人道的な立場から個人的利益を求めず、無私無欲の愛で、死に向かっているユダヤ人を救いました。彼らに共通していることは、
「人を偏って見ないで、人種・民族や宗教、習慣、言葉の違いをのり超えて人間としてユダヤ人を受け止めて守り、彼らの命を救った」ことです。また、「ルールや規則だけを守るのではなく、困っている人たちの苦しみを和らげたり、軽減したり、取り除いた」ことです。
“人にとって最も大切なこと” 即ち、「人の生命の尊さ・重さ（人間の尊厳）」や「人として守られるべき権利（人権）」を学ぶことができます。このことは時代によらず、大切なことではないでしょうか。彼らの素晴らしい行為は、私たち一人一人に、現在および将来にわたって希望の光を放っています。一人の命を救うことは、幾世代にも継承されていきますので、その波及効果には大きなものがあります。

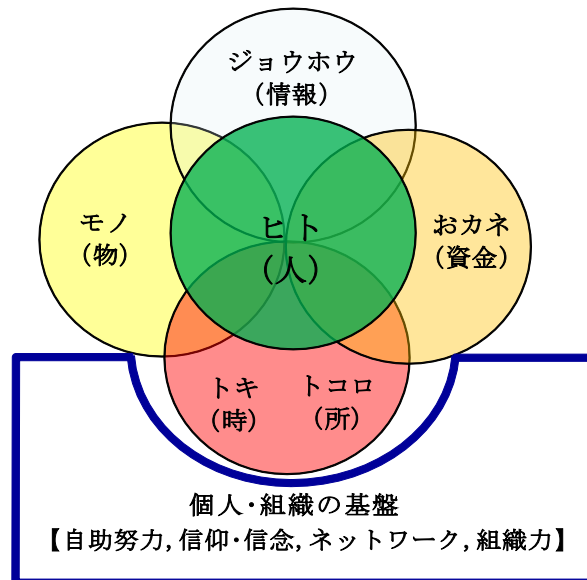
「諸国民の正義の人」受賞メダルの表に刻まれたヘブライ語の言葉は次の通りです（右から読みます）。

כל המקיים נפש אחת כאילו קיים עולם מלא

（コール ハメカイエム ネフェシュ アハット ケイルー カイヤム オーラム マレー）

「一人の命（存在）を救うことは、全世界を救うに等しい」という意味です。人間ひとりとは全被造世界と同じ重みをもつということです。これは、ユダヤの教えが記載されたタルムードから引用されています。

- ・さらに、今回の事例から、どの様な時代状況や環境にあっても、共通する大切なことが導かれます。以上みてきました様に、「ヒト」の働きが一番大きなことは言うまでもありませんが、さらに、「ヒト」は、「適切なトキ」に、「適切なトコロ」で、「有用なジョウホウ」を収集し、それを有効に活用して、「最少のシキン」で「必要なモノ」を得ることが求められます。そして、それを支える個人・組織の強い土台を築いていくことが非常に大切なことだと思います。これが今回の結論のひとつです。



















「重要な要素の相関図」とそれを支える「個人・組織の土台」

ユダヤ難民が助かるためには、「キュラソー・ヴィザ」や「日本通過ヴィザ」だけでは十分ではありませんでした。「ソ連通過ヴィザ」も必要でした。また、「命のヴィザ」をつないだ多くの人たちの働きがあって、はじめてユダヤ難民の救済が完成しました。そこには、「見えざる手の働き（摂理）」が感じられます。

ユダヤ難民救出のキーマンであった、ユダヤ人バルハフティクは柔軟な発想をし、計画を立てて、「ヒ

ト」、「トキ」、「トコロ」、「ジョウホウ」、「モノ」、「シキン」を有効に活用しました。彼は揺るぎない信仰と信念をもって、同胞ユダヤ人救出のために、リトアニア・日本・上海で身を粉にして働きました。

以下の一覧表に示した人物が全ての関係者ですが、今回は「命のヴィザ」の流れに沿って、主要な人物の行動に焦点を当て、事実とデータを踏まえて記しました。今回の話しを通して、「ユダヤ難民を助けた正義の人たち」の全体像を多少なりとも立体的に理解できるようになったのではないかと思います。

ユダヤ人			オランダ	日本	リトアニア	ソ連
ポーランド系 イサーク・レヴィン 宗教運動指導者 	オランダ系 ベツシア・レヴィン (イサークの妻) 	ロシア系 エルハナン・ エルケス博士 ポジニアコフの 主治医	デ・デッケル 駐バルト三国大使 (1884-1948) 	杉原 千畝 駐リトアニア領事代理 (1900-1986) 	ピウス・ グロバツキ 副首相	ニコライ・ボジニ アコフ駐リトアニア ソ連代表 & ミハイロヴィチ・ヤコ ヴィテク駐カウナス ソ連領事
ゾラフ・バルハフティク ユダヤ難民委員会代表 (1906-2002) 	ナタン・グッドヴィ ルド (神学生) (1916-1999) 	ラシュケス エルケス博士の 同僚	ツバルテンディク 駐リトアニア名誉領事 (1896-1976) 	建川 美次 駐モスクワ大使 (1880-1945) 	駐モスクワ大使	ウラジーミル・デカ ノゾフ副外務大臣 (1898-1953)
モイシェ・ズーブニク ミール神学生 (1917-2010) 		A. ポネヴィジ スキー 神戸猶太協会 副総理	神戸駐在 オランダ領事	根井 三郎 駐ウラジオストク総領事 代理 (1902~1992) 		ヴァチエスラフ・ モロトフ外務大臣 (1890-1986) 
ジョーゼフ・シムキン ジョイント (1905-1993) 				大迫 辰雄 JTB職員 (1917~2003) 		ラヴレンチー・ ペリヤ内務大臣 (1899-1953) 
				小辻 節三 ユダヤ人学者 (1899~1973) 		ヨシフ・スターリン 首相 (1878-1953) 
自助努力と揺るぎない信仰・信念			人間の命の尊厳	人間の命の尊厳 【JTBの目的】 顧客の安全輸送/ 経済的利益		【ソ連の目的】 経済的利益・ 情報収集

(注) 他関係者:カウナス駐在イギリス領事гент, 東京駐在ポーランド大使タデウシュ・ロメル

「命のヴィザ」つないだ、国別関係者(「正義の人」とは限らない)

(補足説明) 現在日本人の中では、杉原千畝ただ一人「諸国民の正義の人」ですが、「諸国民の正義の人」の日本人候補者として、小辻節三と根井三郎の2名があげられています。しかし、ヤド・バシム(イスラエル国立ホロコースト記念館)の審査認定条件は非常に厳しいのが現状です。

私の拙い4回の連載記事にお付き合いいただき有り難うございました。私のライフワークとして、これからも、ホロコースト記念館のボランティア活動を継続していく予定です。

みなさん、ぜひ一度ご来館ください。お待ちしております。

以上

【参考図書】

(ホロコースト記念館制作テキスト)

- ・「ポーランドからのユダヤ難民の救出ー『命のヴィザ』をつないだ『善意の連鎖』の真相ー」
学びのテキスト (2019年10月1日)

- ・『『暗やみに光を灯した人』杉原千畝』よくわかるテキスト（2017年6月1日）
- ・「諸国民の正義の人ーユダヤ人を助けた救出者のお話ー」テキスト（2018年3月1日）
- ・「ホロコーストの学びー入門テキストー」～平和をつくるために～（2014年1月27日）